

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

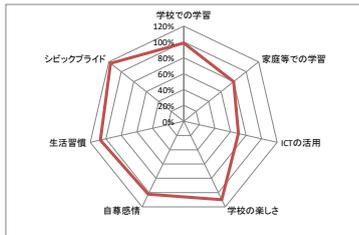
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国・県と比較して国語科に対する関心が高い傾向がある。特に「思考・判断・表現」に関する問題や記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくてきた問題	「メモの書き表し方を説明したのとして、適切なものを選択する問題」		
	努力が必要な問題	「物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題」「漢字を正しく書く問題」		
算数	全体的な傾向や特徴など	全国・県と比較して算数科に対する関心が高い傾向がある。特に「思考・判断・表現」に関する問題や短答式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくてきた問題	「問題場面を表す式を選ぶ問題や小数のわり算の筆算」		
	努力が必要な問題	「割合を読み取る問題」「球がびったり入る箱の体積を求める式を書く問題」		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
○	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用した割合が低かった。どの教科でも効果的にICTを活用できるよう校内研修を充実させていく必要がある。
○	平日・休日ともに家庭での学習時間が短い傾向にあった。家庭学習の大切さについて年間を通して啓発していく。
○	食事や睡眠等、基本的な生活習慣が身につけている児童の割合が高かった。しかし、就寝時間が遅かったり、朝食を食べていなかったりする児童もいるため、家庭と連携したり、啓発したりすることによって規則正しい生活習慣を全ての児童に身につけさせるようにしたい。
○	「地域や社会のために何かしたい」と考えている児童の割合が高く、シビックプライドが育っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・国語科、算数科ともに「思考力・判断力・表現力」に課題がある。語彙力や漢字学習、計算問題等、基礎学力を身につけさせるとともに書く活動や話し合う活動を充実させることにより「思考力・判断力・表現力」を向上させる。

・ICTを各教科の授業に積極的に活用することによって効果的に学力の定着を図る。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・基本的な生活習慣の定着については、「北九州市子どもを育てる10か条」「早寝早起き朝ごはんガイド」を活用し、各家庭に呼びかける。さらに学校だより、学年・学級通信等でも繰り返し伝えていく。